

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 3月 1日

研究・研修課題名	病院感染対策の質向上を目的とした“ICD（Infection Control Doctor）”および”ICP（Infection Control Practitioner）”資格取得のための講習会参加
研究・研修組織名（所属）	感染対策室およびICT（院内感染対策チーム）
研究・研修責任者名（所属）	佐野 千晶（感染対策室およびICT（院内感染対策チーム） 会議）
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

① 目的（800字程度）

院内感染対策は医療法上、必須であり、患者および病院職員の安全を確保するためには不可欠な活動である。この活動は感染対策室員と60名以上のICT会議メンバーによって支援されている。これらICTメンバーの病院感染対策に関する知識や知見を向上することで、ICT会議メンバーのスキルアップにより本院の組織横断的な院内感染対策活動の推進を図るとともに医療の質の向上を図ることで質の高い安全で安心な医療を提供するものである。

同時に、本院は大学病院であることから、広く社会へ貢献することが期待されており、それが大学病院の使命でもある。また、そのような社会貢献については、「院内感染対策」の分野でも同様であり、学会への参加、発表は積極的に行う必要がある。

さらに、院内感染防止対策は診療報酬上、要件を満たす必要がある。その要件の一つに感染対策室専任の医師が勤務することが求められている。一方、ICD制度協議会は、感染制御に関する知識の向上を図り、医療機関における感染対策を充実させる目的で感染制御（感染対策）に従事する医師の養成と認定を行っている。以上から、本院においても感染対策に従事する医師の養成を継続的に行う必要がある。

② 方法（800字程度）

感染対策は組織横断的であらゆる職種の協力があってはじめて成立するものであり、それを担う医療従事者は感染対策のエキスパートであることが必須である。そのエキスパートを養成し、感染対策の質を担保するために関係16学会・研究会がICD（Infection Control Doctor）制度を発足させ、ICD講習会を開催している。

このため、ICT構成員のうち、ICDや感染対策認定看護師・薬剤師・検査技師に相当するICPの資格取得や資格更新・維持やスキルアップのため、1年に3名程度、ICD等講習会に参加させる。

また、ICD制度更新のために、感染に関する学会への参加が認められており、学会への参加と本院における感染に関する学術的レベルアップを図るために積極的に、学会へ参加させる。

さらに、厚生労働省は大学病院や特定機能病院における感染対策に重点を置き、毎年、講習会を開催しており、本院が島根県で唯一の特定機能病院であることから、厚生労働省の主催する院内感染対策講習会にも積極的に参加させる。

③ 成 果 (データ等の図表を入れて2000字程度)

佐野 千晶

- 第 230 回 ICD 講習会【第 90 回日本感染症学会総会・学術講演会時】参加
- 第 239 回 ICD 講習会【第 91 回日本結核病学会総会時】参加
- 第 238 回 ICD 講習会【第 4 回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会時】参加

・ ICD 申請

上記 ICD 講習会に参加し、申請に必要とする参加実績を得ることができたので、ICD の申請を行った。

・ ICD 認定

ICD 申請の結果、ICD 制度協議会による審査を受け合格したので、認定の手続きを行い、ICD の資格を取得した。

*ICD 制度協議会

ICD 認定証 受領済【2017 年 1 月 1 日】